
QA24 東京電力福島第一原子力発電所事故以前にも食品中にセシウムやストロンチウムが入っていたのですか。

過去の大気圏内核実験の影響で世界中に放射性物質が拡散しました。食品中にも放射性セシウムが長い間検出されています。近年は検出限界以下のものが増えていましたが（今回の東京電力福島第一原子力発電所事故前）、1960年代ではごく当たり前に食品中から検出されていました。

環境放射能のデータベースに掲載されている昭和38年の日常食では、セシウム137を一日平均で2.1ベクレル（最大は4.4ベクレル）摂取していました。この平均値を年間の被ばく線量に直すと、成人で9.9マイクロシーベルトとなります。最大値で計算すると20マイクロシーベルトを超えますが、常にそのような食事をしたとは考えにくいため実際はもっと低い値になると考えられます。

一方、ストロンチウム90ですが、環境放射能のデータベースに掲載されている昭和38年の日常食では、一日平均0.48ベクレル摂取していました。この数値は年間に直すと、成人で0.38マイクロシーベルトとなります。

出典：放射線医学総合研究所ウェブサイト「放射線被ばくに関するQ&A」より作成

出典の公開日：平成24年4月13日

本資料への収録日：平成24年12月26日

改訂日：平成27年3月31日